第114回プラスワン例会報告

吉田智紀
YOSHIDA TOMOKI
技術士(機械)

1. 概要

従来、出前授業の反省会を兼ねて忘新年会を開催していたが、年度末・講演者の調整などで近年は4月に開催されることが多くなった。ということで今回は4月中旬の開催となった。

参加人数は子供含めて23名、懇親会22名とコロナ以降最大の参加があった。

表-1 プログラム

実施日：令和6年4月20日
場所：高松市生涯学習センター（まなびCAN）
１． **報告(13:30～14:00)**
『香川高専出前授業実施報告』吉田智紀
２． **講演(14:00～15:50)**
『浸水対策用雨水ポンプにおける世界初の技術への挑戦』(株)石垣　山科健一氏
『技術士としての経験を活かした新しい人生への挑戦（続編）―新たな技術士仲間も参入―』協同組合Masters　渡辺広明氏
『浄化槽の技術変遷と動向について』クボタ浄化槽システム(株)　北井良人氏
３． **参加者３分間スピーチ(15:50～17:00)**
参加者の近況報告・PRなど
４． **懇親会(17:30～20:00)**
高松市内

写真-1　出前授業報告

2. 出前授業報告

昨年度の出前授業は過去最高の参加者があり、講演を廃しグループ討議3回にして学生と話す機会を多くした。いくつか反省点はあるがおおむね良好な運営ができたと思っている。

また昨年始めた理科教室についても報告があった。こちらもトラブルなく開催でき、参加者もほどほどで大きな負荷にはならなかったので今年度も開催の方向で考えている。

2. 講演

最初は山科氏の雨水ポンプに関する講演であった。本製品は令和4年度四国地方発明表彰で中小企業長官賞を受賞したものである。製品の開発だけでなく、ネーミング、PR動画、展示会、共同研究など営業・管理部門一体になって世の中に製品を送り出そうとする取り組みは興味深いものであった。また発明表彰も結局はエントリーしないと受賞しないという根本的な話も妙に納得がいくものであった。

二つ目の渡辺氏の講演では(協)Mastersという異業種事業協同組合での取り組みのその後の報告があった。個人事業主から数百人規模の会社まで、様々な業種･規模の企業の組合で、それぞれに知恵を出し合い新規事業立ち上げ、事業支援を行っている。ジオテツ工法という鋼矢板に関連する特許工法が一つ、キーになっている。しかし、取り組みは建設業にとどまらない広範囲なもので、個人の能力以上の組み合わせ・縁の力を感じた。

最後、北井氏からは浄化槽の技術変遷と動向について講演をしていただいた。全国的には下水道

写真-2　講演(上から山科氏、渡辺氏、北井氏)

による排水処理が最も多いが、香川県は都市部以外では浄化槽が多く、比率でいうと下水道よりも多く普及している。また浄化槽でもほかのシステムと同様、省エネ・LCC 低減が求められ開発が続けられてきた。下水道と同じく、担体を投入して能力アップ・コンパクト化を図った事例や、膜ユニットによる高性能化の紹介もあった。

近年の地震被害を考えると、やみくもに下水管を引くよりも浄化槽による分散化が良いのではないかと考えた。

3. 会員による 3 分間スピーチ

今回も会員によるスピーチをお願いした。近況報告・趣味の話などそれぞれ興味深いものがあった。

その中でプラスワンの 30 周年に関する話題があった。2026 年に設立(？)30 周年となる。そろそろ準備を始めないといけないのでは？という指摘であった。次回例会では構想について考えているところを紹介したいと思う。

ほかに西嶋八兵衛研究会的なものを再び募集・実施してはどうかとの意見もあった。全くその通りで、どうやってテーマを出してもらうか検討することとした。

写真-3　懇親会

4. 懇親会

懇親会は高松市内の居酒屋でいつもの通り実施した。会場がやや狭く、席を移動しての交流ができにくかったのは幹事として反省している。

5. おわりに

今回は普通の例会として企画した。開催時期が良かったのか多くの参加者があり、良い例会となったと思う。

30 周年記念例会、新たな研究会立ち上げと宿題をもらった感もあるが、引き続き会員の協力・支援をベースに運営していきたい。

以　上